

ライブ配信と自己愛性パーソナリティ障害

ネットでの自己愛性パーソナリティ障害の増加と
ライブ配信でのその影響

2019/07/30 1.2

自己愛性パーソナリティ障害とインターネット

- ▶ インターネットでは、自分に都合の良い相手とだけの世界を構築できる
- ▶ 匿名性が強く、学歴、職歴、経験、年齢、場合によっては性別まで自称で通せ、理想の自分を演出することが可能
- ▶ 都合の悪い現実から目をそらし、自分の都合の良い世界に没頭できる



その結果、自己愛性パーソナリティ障害が醸成され増加する。



自己愛性パーソナリティ障害 特徴

- ▶ 自分は特別な存在だと信じている(自己暗示)
- ▶ 優越感を得るために 身近な弱者を貶め見下すことで満たそうとする。



- ▶ 称賛・注目・感謝を求め、また、些細な否定に怒り、特別扱いを要求する
- ▶ 理想の自分を演じる(そのためにしばしば嘘をつく)
- ▶ 絶えず辱めるターゲットを求め、自己の 精神のバランスを保とうとする。



自己愛性パーソナリティ障害 行動パターン

- ▶ 情報操作をする / 平気でウソをつく
- ▶ 他人の痛みに対して鈍感
- ▶ 都合の悪い真実を嘘でねじ伏せる
- ▶ 矛盾する発言が多い / 言うことがコロコロ変わる



自己愛性パーソナリティ障害 診断基準.1

1. 自己の重要性に関する誇大な感覚をもっている

例：業績や才能を誇張する。十分な業績がないにもかかわらず、優れていると認められることを期待する

2. 限りない成功、権力、才気、美しさ、あるいは理想的な愛の空想にとらわれている

3. 自分が「特別」であり、独特であり、他の特別なまたは地位の高い人達（または団体）しか理解されない、または関係があるべきだと信じている

DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引き より



自己愛性パーソナリティ障害 診断基準.2

4. 過剰な称賛を求める

5. 特権意識、つまり、特別有利な取り計らい、または自分の期待に自動的に従うことを理由なく期待する

6. 対人関係で相手を不当に利用する、つまり、自分自身の目的を達成するために他人を利用する

自己愛性パーソナリティ障害 診断基準.3

7. 共感の欠如：他人の気持ちおよび欲求を認識しようとしていない、またはそれに気づこうとしない
8. しばしば、他人に嫉妬するまたは他人が自分に嫉妬していると思いつまむ
9. 尊大で傲慢な行動、または態度をとる

自己愛性パーソナリティ障害とライブ配信

インターネットの普及が自己愛性人格障害の増大を招いている傾向にあることは述べたが、ライブ配信サイトにおいて

- ・配信者が一部リスナーの言うことに振り回され続ける
- ・繰り返されるDMでのダメ出しにノイローゼ気味になってしまう
- ・間違ったルール等を堅くないに信じ込んでしまう
- ・一部のリスナーとそのシンパ以外のリスナーがいなくなってしまう
- ・ネットストーカー被害に遭う
- ・結果、配信をやめてしまう
- ・結果、音楽等の活動を中断してしまう

など「なぜこんな事になってしまうのか」と疑問に思っていた事柄の多くに、この自己愛性人格障害を持っていると思われる(もしくはその傾向のある)人たちによって引き起こされていると思われる事例が多々みうけられる。

特に配信者を自分の支配下に置こうとするユーザー(いわゆる操縦型)に自己愛性パーソナリティ障害の特徴の多くが一致する。

